



ディスカバー
農山漁村(むら)の宝

内閣官房・農林水産省主催

平成27年度 第2回ディスカバー農山漁村の宝 選定

[お菓子な郷推進協議会]



カエデの樹 ちちふまゆ 秩父カエデ糖タルト 楓のおくりもの



ちちふの恵み カエデのラムネ カエデ山の玉手箱 すのうぼうる

お菓子な郷推進協議会

〒368-0046 埼玉県秩父市宮側町1-7
(秩父地域地場産業振興センター内)
TEL 0494・25・0088
FAX 0494・22・3384
mail okasinakuni@gmail.com
URL <http://www.okasinakuni.jp>

- | | |
|--------|------------------|
| 栗助 | TEL 0494-25-2411 |
| 水戸屋本店 | TEL 0494-22-1237 |
| 栄誠堂 | TEL 0494-22-1374 |
| 江原本店 | TEL 0494-22-0354 |
| 秩父中村屋 | TEL 0494-22-0838 |
| 相生町水戸屋 | TEL 0494-24-1538 |





【ディスカバー農山漁村の宝とは】

内閣官房及び農林水産省は、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信することとしています。

【お菓子な郷推進協議会のカエデへの取組】

秩父山地に囲まれ、朝と夜、夏と冬の温度差が激しい埼玉県秩父市。住む人々には厳しい気候は、反面多くの山の恵みを育ててきた。

カエデの木もそのひとつ。冬は気温が氷点下まで下がる秩父寒さは、カエデの生育に適し、およそ25種類以上のカエデが秩父の山に自生している。

日本人にとってカエデと言えば、紅葉の様子がまず思い浮かぶ。だがカナダでは、カエデからつくられるメイプルシロップだろう。

「秩父のカエデから樹液を採って、秩父らしいお菓子を創ることができないだろうか」

秩父の気候が育んだ、秩父にしかないお菓子を生み出すために、こうして菓子屋たちの奮闘が始まった。



表彰状を受け取る町田会長



「ディスカバー農山漁村の宝」選定証授与式
平成27年10月29日

応援メッセージ

●お菓子な郷推進協議会の皆さんの活躍は、秩父商業の活性化だけでなく、農林業の力強い応援にもなっていて、地域の発展には欠かせないものです。
(埼玉・40代 女性)

●素晴らしい取組で、卒論のテーマにしたいと感じました。
(東京・20代 女性)

●森を育てて、お菓子を創る地域のお菓子屋さんの取組は、新たな発想で、夢と希望を発信されています。
(埼玉・50代 女性)

有識者委員の主なコメント

- 森づくりから海外へ届く活動、まさにグローバル(glocal=global+local)を統合する活動。
- 地域の若者、高齢者、障がい者等と連携協働することで収益が地域全体に循環する仕組みが構築されている点、カエデ植樹により山村の荒廃防止が図られている点が評価出来る。
- 日本にもメイプルシロップの産地があったとは！カナダに負けないくらい頑張れ。

安倍総理のお言葉

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」交流会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

この会場に入ってまいりますと、何となく地元に戻ってきたような、リラックスした雰囲気になりました。

美しい田園風景、そしてまた助け合いの文化、そして、ずっとお互いに地域を守っていくという、そういう思い。そうした日本の素晴らしい国柄、故郷の伝統を守っているのは活力ある農山漁村だろうと思います。正にその中で、宝を見つける。住んでいる方は意外と、故郷の良さというのが、空気のようなものですから、分からない場合もありますが、そういう宝を発見していくことによって、活力ある地域を創っていくことに、私はなるんだろうと思います。

宝はまだまだ眠っています。私はこれからは農山漁村(むら)の時代でないかと思うのは、それが所以です。皆でこの宝を発掘して、そしてそれを更に磨きをかけながら、それを発信することによって地域を活力ある地域に変えていく。こういう思いで今日は皆さんにもお集まりをいただいたと思います。

今日は27地区の皆様へ、ここにお越しをいただいたわけですが、応募は683件あったと、こう聞いておりますから、その中から選りすぐられた皆さんですから、どうか誇りと自信を持っていただきたいと、こう思うところでございます。

六次産業化、ブランド化に取り組んでいる皆さん。あるいはまた、外国人観光客の農山漁村体験を進めている地域の皆さんや、あるいは女性の活躍や子供の食育、こんなことにも取り組んでいる皆さんにもお越しをいただいていると伺っております。

これから地方創生を進めていく、あるいは活力ある日本を創っていく。その単位は、正に農山漁村(むら)ではないのかなと思います。今日も皆様からいろいろな話を伺ったり、皆様の自慢の宝を見せていただいたり賞味をさせていただき、そしてこの場からまた日本全体にそして世界に発信をしていきたいと思っております。

これからも皆様、各地域の素晴らしい伝統と美しい田園風景を守りながら、活力ある地域を創っていただきたいと思います。

一緒に頑張っていきましょう。おめでとうございました。

